

平成
20
年度

しまね建築・住宅 コンクール



島根県

はじめに

近年、大地震が全国各地で頻発しており、いづれどこで発生してもおかしくない状況であるとの認識が広がりつつあります。

このような状況の中、県といたしましては、平成 19 年度に「建築物耐震改修促進計画」に基づき、耐震対策を総合的に進める「建築物等地震対策促進事業」を創設し、本年度も引き続き実施しているところであります。

「しまね建築・住宅コンクール」は、この事業の一環として、優れた建築技術や地震防災活動等を表彰し、県民及び事業者の皆様方の自主的な取組を促進することを目的として平成 19 年度から実施し、本年度はテーマを「地震への備え」として募集しましたところ、16 件の応募をいただきました。

審査の結果、最優秀賞と優秀賞は該当がなく、奨励賞は、設計・工事・技術提案部門及び防災活動部門でそれぞれ 2 件が選定されました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げます。

地震発生のメカニズムの研究は進んでいるものの、地震を完全に予知することは困難であり、また、地震発生による人命や財産に対する被害が予想されます。こうしたことから、自らの命と地域社会の安全を守るため、県民一人ひとりが建築物の地震対策を講ずるなど、日頃から地震に備えておくことが大切であると考えております。

県といたしましても、地震における人的被害の軽減に最も効果的である「建築物の耐震化」に向けて取り組んで参りますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、審査をしていただきました委員の皆様や、応募をいただいた方々に、厚くお礼を申し上げます。

平成 21 年 3 月

島根県土木部建築住宅課

課長 波多野 修

選考総評

平成 20 年度のテーマは「地震への備え」です。募集は、2 部門にわけられています。すなわち、(1)設計・工事・技術提案部門 (2)防災活動部門(家具や機器の転倒防止の取組み、防災訓練や研修会の実施、企業などの災害に備えた取組み等)です。応募総数は 16 件で、設計・工事・技術提案部門 13 件、防災活動部門 3 件でありました。

応募された提案・事業・活動を、(1)耐震化の促進に貢献するもの (2)今後のモデルとなり、波及効果が期待できるもの (3)創意・工夫が見られるもの (4)地域の特性を生かしたものであるものという 4 つの視点から審査委員 5 名によって慎重に協議致しました。

その結果、最優秀賞と優秀賞は該当がなく、奨励賞 4 件の総数 4 件が選定されました。内訳は以下の通りです。

<設計・工事・技術提案部門>

奨励賞 「JR安来駅 観光交流会館」

奨励賞 「海士中学校工コ改修」

<防災活動部門>

奨励賞 「耐震改修モデル設計による地域学習会」への参加を通じた耐震診断技術の習得及び耐震意識の啓発」

奨励賞 「わが家の耐震改修工事」

今回のテーマは「地震への備え」という少し難しいこともあって、全体的には、耐震化の促進に貢献している提案はありましたが、技術を独自に開発し今後のモデルとなるとの視点からは、さらなる創造的工夫が求められるとの意見が多かったように思われます。

今回の諸提案が、幅広い視点から検討を得て、県民に親しまれる今後のモデルとなり防災意識の向上と耐震改修の促進へとつながっていくことを審査員一同期待しています。

審査委員長 熊谷 昌彦

審査委員

熊谷 昌彦

(米子工業高等専門学校教授)

小草 伸春

(協同組合建築技術センター理事長)

原 裕子

(社団法人島根県建築士会女性委員長)

吾郷 康子

(島根県商工会女性部連合会長)

花坂 義夫

(浜田市建設部長)

敬称略 / 50 音順

審査経過

募集期間

平成 21 年 1 月 5 日～1 月 30 日

募集結果

応募総数 16 件

内訳

設計・工事・技術提案部門 13 件

防災活動部門 3 件

審査 平成 21 年 2 月 10 日

表彰式 平成 21 年 3 月 24 日

題 名

JR 安来駅 観光交流プラザ

建 築 主

西日本旅客鉄道株式会社 米子支社
 執行役員米子支社長 川上 優
 安 来 市

設 計 者

アトム設計共同企業体

施 工 者

大鉄工業株式会社 米子支店
 常務執行役員支店長 森長 正美

提案理由

木構造は大規模な建築に使われることが多くありません。それはひとつに燃えやすいと思われていること、そして耐久性がコンクリート造などに比べて劣ると思われていること、そして耐震性に劣ると思われていることが主な原因です。しかし、燃えやすさについては近年の実験による研究で、木を覆わなくても準耐火の性能を保證できるようにもなりました。今は耐火建築も木造で可能です。そして耐久性については 100 年以上もっている建物が木造ではざらにあることから、劣るどころか、むしろ他の構造に比しても優れていることが分かります。そして耐震性ですが、これも近年の木構造の構造解析技術の進歩により、大規模地震にも十分に耐えうる構造が計算により可能になっています。

JR 安来駅は大規模建築にもかかわらず木構造を採用するに当たり、それらのことを十分に満足すべく計画されています。特に耐震性につきましては、従来の構造壁の配置などの上に、伝統工法でもある小屋組みの貫構法を採用しています。さらに、窓部分にも筋違を入れ、建物前面の回廊柱も開放性を保ちつつ、格子などによって剛性を確保しています。

このように伝統工法を取り入れて補強することにより、大規模地震にもより安全となり、なおかつダイナミックな木組みが人の目をひきつける空間となりました。そして地元の木をふんだんに使い、環境にもやさしい公共建築としています。信頼に耐える大規模木造建築がさらに普及することを願い、コンクールに応募しました。

選 定 理 由

JR 安来駅は、木造の伝統的構法に基づいた大規模建築で、安全性を考慮して壁量の確保やバランスのよい壁の配置がなされている。壁量計算上では考慮しない部分も伝統的構法を取り入れて補強し、耐震性を高めている。木造建築の耐震性について伝統的構法を考慮して構造計画している点が評価された。



正面



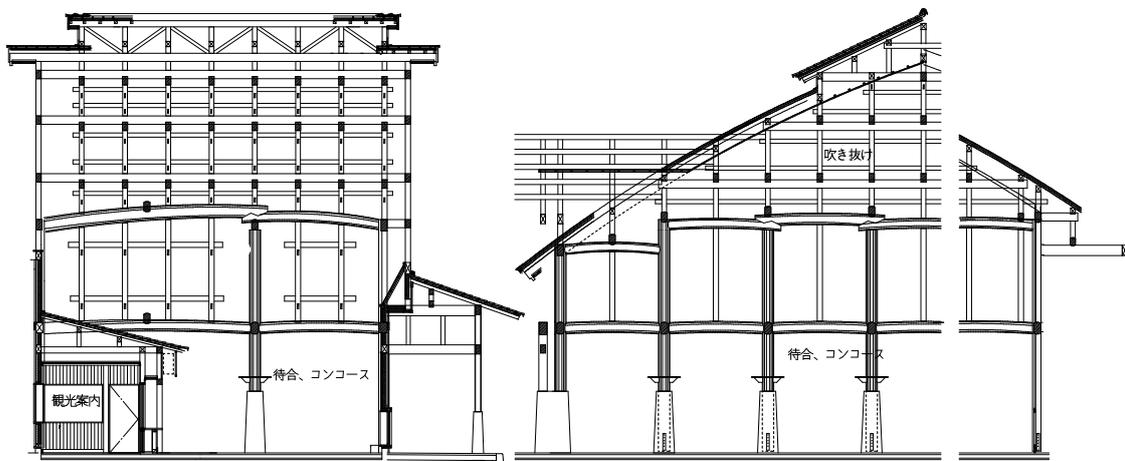
回廊



貫補強の小屋組み



正面の大きな窓 (工事中)



大屋根部分断面図

題 名

海士中学校エコ改修

建築主 海 士 町

設計者 有限会社アイエムユウ建築設計事務所
代表取締役 山根 秀明

施工者 鴻池ビルテクノ株式会社 大阪支店
支店長 永瀬 光一郎

提案理由

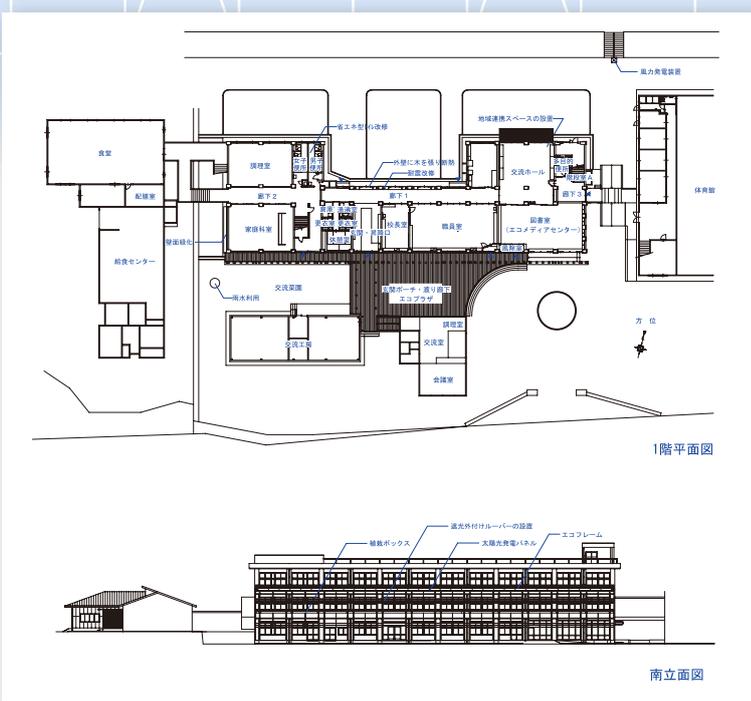
海士中学校は環境省が行なっている「学校エコ改修と環境教育」事業のモデル校となりエコ改修を行なってきました。この事業は地球温暖化を防ぐ学校改修(エコ改修)を進めるハード事業と、こうした整備を利用して学校と地域が協力した環境教育の推進や環境建築技術の地域への普及といったソフト事業を一体的に進めようとするものです。ハード面においては、学校の環境改善、耐震補強、現代教育にあった間取り、地域との交流スペースの創出などを実現し、学校全体が環境教育の場となり、ランニング及びライフサイクル CO₂ を抑制することが大きな目標の一つでした。試算によりますと少なく見積もっても約 11%の CO₂ 削減効果が期待できます。耐震の改修においては鉄骨のブレース、構造スリット、耐震壁などを新たなプランとの整合をはかりながらバランスよく計画することを心がけました。構造は露骨に表現せず断熱効果をねらった地場産の杉板でカバーしました。窓なども意匠的に工夫し、違和感なく環境教育の場を作り上げるように配慮しました。

本改修は、単に構造的な耐震改修を行なうだけでなく、海士町という地域特性を生かし、学校や地域が一体となって環境に対する意識を高める場を創るものでした。そしてそのことは地震などの災害にも強い学校や地域をつくりあげることにつながると思います。

本コンクールの主旨とも合致すると思ひ応募いたしました。

選定理由

隠岐郡海士中学校は、環境省が行っている「学校エコ改修と環境教育」事業のモデル校である。改修にあたり、環境改善とともに耐震補強を行っている。鉄骨ブレース、構造スリット、耐震壁等をエコ改修と整合させながら意匠的に工夫している点が評価された。



題 名

「耐震改修モデル設計による地域学習会」への参加を通じた耐震診断技術の習得及び耐震意識の啓発

活動主体

中国職業能力開発大学校 附属

島根県職業能力開発短期大学校 住居環境科

長田 優大、廣兼 純一郎 指導講師 上中 勝博

提案理由

島根県建築士会より当校へ、島根県から同建築士会への委託事業である「耐震改修モデル設計による地域学習会」への参加招請がありました。

これは、当校住居環境科学生が第一線の実務者である建築士会会員と共に実務経験ができ、実際の耐震診断技術を経験できること、加えて、同学生の報告会等により他の学生へ地震に対する耐震の意識啓発が行える等の理由で、総合制作実習の一環として同学習会へ参加させて頂きました。

総合制作実習では、地域学習会への参加、現場での耐震調査、耐震診断及び耐震補強設計を行いました。その取組成果を当校主催イベントである「ポリテックビジョン」において、発表及び報告し、また建築士会江津支部と合同で、同学習会の状況や建築物の耐震に関する情報の展示を行いました。

加えて、同イベントにおいて建築士会江津支部会員を講師とし、当校学生、江津工業高校建築科生徒及び地域住民などを対象とした公開講座により、耐震意識の啓発を行いました。

以上の取組成果から、本コンクールの主旨に沿うものであると考え応募いたしました。

選定理由

学生が「耐震改修モデル設計による学習会」を建築士会の会員と共に行うことで、耐震診断技術の学習の向上がはかれ、さらに報告会を通じて他の学生の地震に対する意識の啓発を行っている点が評価された。そして、今後の益々の活動の発展を期待したいとの意見が多勢を占めた。

耐震診断現地調査

実測により間取りの調査を行いました。また、間取りの調査にあわせて、耐震要素の調査・確認、柱や床の傾きなどの劣化調査を行いました。



床下から基礎の位置やひび割れなどの状態、土台の腐朽などの状態を確認しました。

建築士会の方と共に行動し、実務的な耐震診断手法を学習し、また、耐震診断手法以外の様々なことも学ぶことができました。



地域学習会への参加

2回の地域学習会へ参加し、地域の方と共に、過去の地震の被害状況や耐震診断の方法、家具の配置方法などを学習しました。その後、ワークショップで耐震への意識や防災意識について意見を出し合いました。

学習会などの進め方を学び、また、地域の方の耐震への考え方を知ることが出来ました。



実習成果の発表



ポリテクカレッジ主催のポリテックビジョンで、実習成果の展示・発表を行いました。

展示では実習成果のパネル、簡易診断、簡易模型による耐震要素の体験を行い、実習成果発表会では、実習での取り組み報告を行いました。また、建築士会江津支部会員を講師として招き、耐震講話を実施するなどして、来場者の方、他の学生に耐震意識の啓発を行いました。

題 名

わが家の耐震改修工事

活動主体

山内 恭

提案理由

私がこのしまね建築・住宅コンクールに応募しようと思ったのは地震が来ても安心して老後を過ごせるよう家を丈夫にしようと考えたからです。その理由は以前私が勤務していた安来市伯太町の赤屋小学校で鳥取県西部地震（マグニチュード7.3）を体験したことが引き金でした。安来市安来町では震度5強を記録。突然ゴーンという音とともに起きた揺れは体験したことがないほど大きく、校庭には地割れが起きました。

この体験から私は松江市の広報誌で知った助成制度を利用して昨年5月に木造2階建ての自宅の耐震診断を受けました。結果は「倒壊する可能性が高い」とのことで地震の怖さは今でもよく覚えているため診断をきっかけに改修を決め、島根県と松江市が今年度から設けた耐震改修の助成制度の適用第1号となりました。

只今改修工事中ですが、工事が進むにつれて耐震補強がなされ、安心して住める住宅になりつつあります。

この「安心」という言葉を実際に手に入れた気持ちを皆さんに伝えたくて応募させていただきました。

選定理由

鳥取県西部地震の被災体験のもと、自宅を改修する際、耐震改修しようとの思いがあって、耐震診断をしたうえで、耐震補強を島根県・松江市の補助制度を使用して行った最初の事例である。県民の一人一人の防災意識の向上こそが防災活動であることを提示した点が評価された。



わが家の耐震改修

改修住宅外観
(外周を構造用合板で補強)

わが家の耐震改修

改修住宅外観
(外部から筋かいの設置)



わが家の耐震改修

改修住宅外観
(基礎のひび割れを補強)

わが家の耐震改修

改修住宅内観
(天井裏で梁に補強金物を設置)



平成20年度しまね建築・住宅コンクール応募要領

本年5月に発生した中国四川省での大地震では多数の死傷者が発生し、その多くが学校等建築物の倒壊が原因であったことから、改めて自分達の周りにある建築物の耐震性に関心が高まりました。

島根県においては、平成18年度に「島根県建築物耐震改修促進計画」を策定し、建築物の耐震化の促進に積極的に取り組むこととしており、その事業の一つとして平成19年度から「しまね建築・住宅コンクール」を開催しています。

このコンクールでは、地震に備えて耐震改修を行なった建築物や耐震化に関する設計提案、地域や企業で取り組んでおられる地震防災活動等の中から優れたものを表彰することにより、防災への関心を高めることを目的としています。

1. 募集の概要

(1) 応募資格・内容

平成20年度のテーマは『地震への備え』としました。

このテーマに沿って、主に島根県内において、平成20年12月末までに実施された取り組み等について、以下の部門別に募集します。(個人・団体・企業等、どなたでも応募できます。)

募集部門	内 容
設計・工事・技術提案部門	耐震化又は耐震改修に係る工事の計画・設計 【例】・リフォームに併せた耐震改修の計画・設計 ・デザイン・コスト低減・使い勝手等に工夫した耐震改修の計画・設計 ・新しい耐震・制震・免震技術を取り入れた工事の計画・設計 等
	耐震化又は耐震改修に係る工事 【例】・リフォームに併せた耐震改修工事 ・デザイン・コスト縮減・使い勝手等に工夫した耐震改修工事 ・耐震性の劣るブロック塀の補強工事又は生垣等への変更 ・新しい耐震・制震・免震技術を取り入れた工事 等
	耐震化又は耐震改修に係る工法及び製品等 【例】・耐震化又は減災に役立つ建築(設備)工法、建築部品、設備機器 ・地震から身を守る製品・用具など ・地震発生時に利用できるテント・トイレなどの仮設資材
防災活動部門	家具や機器の転倒防止の取組み、防災訓練や研修会の実施、企業などの災害に備えた取組み等 【例】・住宅内の家具及び病院の医療機器の転倒防止対策等の取組み ・地区内で実施する地震防災訓練、研修会及び点検等の活動 ・保育所、学校及び大学等における地震防災教育、活動及び研究 ・災害発生に備えた企業活動、製品の開発 等

(2) 応募方法(提出物)

応募用紙に必要事項を記入し事務局に提出してください。

なお、内容を説明するための資料として、可能な範囲で次のものを添えてください。

- ・写 真 サービスサイズ(12cm×8cm程度)4枚程度
- ・図 面 A4又はA3サイズ 数枚程度
- ・その他 活動状況が判るパンフレットやホームページを印刷したもの 等

(3) 応募締め切り

平成21年1月30日(金) (郵送の場合、当日の消印のあるものは、有効とします。)

(4) 応募及び問い合わせ先

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県土木部 建築住宅課 住宅企画グループ TEL 0852-22-5222 FAX 0852-22-5218

2. 審査・表彰

(1) 優秀案の選考方法

しまね建築・住宅コンクール審査委員会を設けて審査し、部門別に、最優秀賞、優秀賞、奨励賞 等を選考します。

(2) 審査委員

しまね建築・住宅コンクール審査委員会は、次の各委員により構成されます。(以下敬称略、順不同)

熊谷昌彦 米子工業高等専門学校教授 小草伸春 協同組合建築技術センター理事長
原 裕子 社団法人島根県建築士会女性委員長 吾郷康子 島根県商工会女性部連合会長
花坂義夫 浜田市建設部長

(3) 表彰及び公表

入賞者は、審査委員会の選考結果に基づき知事が決定し、表彰状及び副賞を授与します。

なお、コンクールの結果については、公報を通じて発表します。

3. その他

(1) 応募に際して提出していただいた応募用紙及び資料は返却いたしません。

(2) 提出物について、島根県は、報告書等の広報用印刷物の作成のほか、その他広報等において、無償で使用する権利を有するものとします。

島根県内の耐震診断・耐震改修制度について

地震は私たちが油断した頃に発生し、平和な日常を一瞬にして奪い去ります。地震から身を守るためには、我が家の耐震性能を知ることが重要です。耐震基準が改正された昭和56年以前の住宅にお住まいの方は、まず耐震診断をお受け下さい。その上で状況に応じて耐震改修を行いましょう。以下の5市では、木造住宅の耐震診断や耐震改修を実施される方に対し、費用の一部を助成しています。



松江市にお住まいの方

木造住宅耐震改修事業費補助事業・木造住宅耐震診断士派遣事業及び診断費補助事業

(助成金額)

- 耐震診断費3万円のうち、2万円を助成(自己負担1万円)
- 耐震改修費の約23%の2/3を助成(32,600円/㎡を限度とし、50万円を上限とする)

(助成対象)

- 階数が2以下の木造一戸建て(又は長屋建て)住宅で、昭和56年5月31日以前に着工されたもの
- 耐震改修助成については、耐震診断の上部構造評点が1.0未満であるもの

(受付期間・募集戸数)

- 受付随時(申込先着順)
- 募集戸数は診断25戸、改修5戸

(受付窓口)

- 松江市役所建築指導課
(Tel. 0852-55-5342)

浜田市にお住まいの方

木造住宅耐震化等促進事業

(助成金額)

- 耐震診断費の9/10を助成(上限4万5千円)
- 改修設計費用の2/3を助成(上限40万円)
- 耐震改修費の約23%を助成(80万円/棟を上限)
- 耐震性能の低い住宅の解体費用の約23%を助成(上限40万円)

(助成対象)

- 階数が2以下の木造住宅で、昭和56年5月31日以前に着工されたもの
- 耐震改修助成については、現行の耐震基準に適合していないもの。

(受付期間・募集戸数)

- 受付随時(申込先着順)
- 募集戸数は診断10戸、改修2戸、設計2戸、解体5戸(予定)

(受付窓口)

- 浜田市役所建築住宅課
(Tel. 0855-22-2612)

出雲市にお住まいの方

木造住宅耐震化促進事業

(助成金額)

- 耐震診断費の2/3(一般診断法は4万4千円、精密診断法は12万円を上限)

(助成対象)

- 階数が3以下の木造一戸建て住宅で、昭和56年5月31日以前に着工されたもの

(受付期間・募集戸数)

- 受付随時(申込先着順)
- 募集戸数は一般診断法2戸、精密診断法1戸

(受付窓口)

- 出雲市役所建築住宅課
(Tel. 0853-21-6720)

大田市にお住まいの方

木造住宅耐震診断事業費補助事業

(助成金額)

- 耐震診断費の1/3(上限3万円)

(助成対象)

- 階数が2以下の木造一戸建て住宅、併用住宅(住宅以外の用途の面積が1/2未満)、長屋建て住宅又は共同住宅で、昭和56年5月31日以前に着工されたもの

(受付期間・募集戸数)

- 受付随時(申込先着順)
- 募集戸数は診断5戸

(受付窓口)

- 大田市役所都市計画課
(Tel. 0854-82-1600(代))

江津市にお住まいの方

木造住宅耐震化促進事業

(助成金額)

- 耐震診断費の2/3(上限5万円)

(助成対象)

- 階数が2以下の木造一戸建て(又は長屋建て)住宅で、昭和56年5月31日以前に着工されたもの

(受付期間・募集戸数)

- 受付は8月頃より随時
- 募集戸数は診断5戸

(受付窓口)

- 江津市役所都市計画課
(Tel. 0855-52-2501(代))

☆増築等の状況によっては助成対象とならない場合もあります。詳しくは各市役所の受付窓口までお問い合わせください。

【耐震改修促進税制について】

上記以外の地域にお住まいの方でも、一定の基準を満たす耐震改修を行った場合、固定資産税等の優遇措置が受けられる場合があります。詳しくは県建築住宅課まで。

島根県建築住宅課 松江市殿町1 Tel.0852-22-5226





平成20年度
しまね建築・住宅コンクール
島根県土木部建築住宅課